



八峰町12月議会定例会

町長の行政報告をお知らせします

八峰町議会12月定例会が16日から18日までの会期で開かれ、町長の行政報告や一般質問、補正予算の議案審議などが行われました。町長の行政報告の中から主なものをお知らせします。

新型コロナウイルス感染症対応 地方創生臨時交付金 事業者を支援

「事業継続臨時交付金」については、建設・建築業35件、漁業33件、サービス業31件、産直施設23件、飲食・小売・食品製造等39件、農林業・製造業を含むその他事業32件、延べ193件の個人・事業所に対し、総額3,780万円を支援いたしました。

また、「雇用維持臨時給付金」については、11月末時点において4法人事業所に259万円を助成し、町内在住者の雇用の維持を支援しています。

さらに「宿泊施設感染予防対策事業」については、町内9箇所の施設に総額225万円を助成し、宿泊されるお客様に対する感染予防対策に万全を期していただくようお願いいたしました。

また、東北4県の宿泊者を対象とした「宿泊助成事業」については、11月末時点において8箇所の宿泊施設に延べ1,043人の利用があり518万8,000円を助成しています。

町民に配布した無料の入浴クーポン券については、11月末時点において、延べ1,690人の利用となっており、好調に推移しています。

中浜地区中心整備事業アンケート 津波リスクに対する若者の意識を調査

9月定例会で中間報告したアンケート調査の最終結果を報告します。対象とした20歳から40歳の住民89名のうち52・9パーセントにあたる476名から回答をいただきました。

「津波の浸水が想定されるような地域には住みたくない」と答えた方が272名、57・1パーセント、「津波の浸水が想定されるような地域であっても避難対策がとられていれば住んでもいい」と答えた方が133名、27・9パーセントとなりました。

地区別に見ますと、峰浜地区では、「住みたくない」が176名、66・4パーセント、「住んでもいい」が47名、17・7パーセントとなり、八森地区では、「住みたくない」が96名、45・5パーセント、「住んでもいい」が86名、40・8パーセントとなりました。

今回のアンケート調査は、津波リスクに対する若者の意識を知りたいということで実施しましたが、若者全体では津波リスクについて敏感に感じている方が多くおり、地区別に見ると、津波リスクのエリアが少ない峰浜地区で「住みたくない」が圧倒的に多く、津波リスクのエリアが多い八森地区では「住んでもいい」が峰浜地区の2倍以上となっており、わかりました。中浜地区中心整備事業については、これまでの議会における一般質問に対する意見交換やこの度のアンケート調査、さらには先般作成した町が所有する遊休施設等に関する基本的な考え方を定めた「八峰町公有財産活用基本

「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の中で、「第二次事業継続臨時交付金」として対応していくことを検討しています。

なお、小中学校や役場庁舎などへの非接触型検温システムの導入を図ったほか、段ボールベッドや感染予防保護テントなど避難時に必要となる物品の備蓄等についても順調に進んでいます。

町内巡回バス試行運行 利用状況 1か月で延べ127人の利用

10月8日に第2回八峰町公共交通会議を開催し、公共交通アンケートの結果を報告するとともに、巡回バス試行運行計画(案)を説明いたしました。

バス事業者や住民および利用者代表を始め、秋田運輸支局、能代河川国道事務所、山本地域振興局、能代警察署、秋田県交通政策課の方々から様々な意見が出されましたが、いずれも試行運行は大事ということとなり、11月2日から12月25日まで、土・日、祝日を除く平日に6ルートの試行運行をするこ

といたしました。

11月末までの利用状況につきまして、いずれも延べ人数ですが、大久保岱・水沢ルートが30人、大槻野・目名潟ルートが4人、大信田・横内ルートが20人、石川・畑谷ルートが11人、稲子沢・内荒巻ルートが13人、岩館ルートが49人となっており、いずれのルートも週2回運行ですが、合計で127人となっております。

また、「道の駅みねはま」で待機中の利用者の方々から乗り継ぎに対する感想等について聞き取りを行っている

方針」などを総合的に勘案しながら熟慮してまいりました。

「道の駅はちもり」 ハタハタ館エリアに移転を検討中

本年3月の町議会定例会において、「ハタハタ館を道の駅に指定できないか」との一般質問があり、ハタハタ館を中心とした御所の台エリアは、八峰町を元気にするための大きな拠点になるところであり、そのエリア全体から考えた場合、「ハタハタ館」を道の駅にするという思いは強くあり、今後国や県の関係機関との協議を進めてまいりたいとお答えいたしました。

令和2年度に入り、秋田県山本地域振興局へ相談したのち、本庁道路課との三者で道の駅の移転が実現可能か、そのためにはどのような整備条件が必要なのか等について話し合いを行いました。

その後、秋田県と国土交通省の関係機関との協議や調整を経て、「道の駅」の移転については、道の駅としての機

ほか、12月からは利用者アンケートも実施しています。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響により、試行運転の時期が遅くなってしまいましたが、令和3年度においては、もっと早い温暖な時期に試行運転を実施しながら、住民の皆様が利用しやすい地域公共交通システムの構築に向け、取り組んでまいります。

令和3年度米の生産目安 県全体で「39万トン」に決定

県では県産米の価格の安定を図るため、平成30年度産米から県産米全体の「生産の目安」を提示し、各市町村は市町村段階の「生産の目安」の提示を行ってまいりました。

県産米の需要は堅調であるものの、全国的には米の需要量が年々減少少ってきていることや、新型コロナウイルス感染症の影響もあつて、さらなる需要の減少が想定されることなどから、県は生産者へ早めに情報提供するため、令和3年度産米の「生産の目安」を例年より1カ月前倒しして提示することとし、11月6日、秋田県農業再生協議会臨時総会を開催、県全体の生産の目安を今年産米の目安より1万5,000トン少ない「39万トン」とすることを決定し公表したところです。

これを受け、八峰町農業再生協議会では、町としての目安の算定作業を進め、今月21日に再生協議会臨時総会を開催し、生産の目安を決定していただき、方針作成者へ提示する予定です。

能を満たすことを条件として認められる」との回答をいただいています。

峰浜ポコ子ども園が完成 新しい園生活がスタート

「峰浜ポコ子ども園」は園舎工事に続き、外構工事も9月末に完了し、10月3日には、工事関係者、町議会議員および保護者代表の皆様をお招きして落成式を開催いたしました。

10月5日から62名の園児で新しい園生活をスタートしたところです。

今後は来年4月からの幼保連携型認定子ども園の開園に向けて準備をしてまいります。

